

# 夢が花咲き 泉 知の 花 わく

進んで考える子・共に助け合う子・元気でたくましい子



第 4 号

2025. 5. 14

文責：校長（門田）

## 正しい知識 本当に知っているとは

これは、5月12日(月)の全校朝会で話題にしたことです。こんな話をしました。

みんなは、ろうそくやお線香に火をつけるとき、どんな道具を使いますか？

そうですね。マッチやライターを使いますね。(「子どもだけじゃダメだよ」の声あり)

ところで、昔、マッチやライターが使われる前は、どうやってたのかなあ？(「木を、こうやってこすって…」等の反応)

今、誰かが言ってくれました。火打石っていう道具があるね。みんな火打石って知ってる？(挙手多数)じゃあ、見たことある人？(挙手減)使ったことある人？(さらに減)

火打石が出てくる昔話って言ったら、何？そう、「かちかちやま」だね。どんな話？(うさぎが、悪いタヌキをこらしめる)

そうだね、絵本を見つけました。



ウサギが両手に持っているのが火打石。それを「カチカチ」って打ち付けて火花が出ている絵が描いてるね。

実は火打石をもってきました。これが火打石です。

これを打ち付けると火花が出るんだね。それっ！(カチカチ！)



あれ？火花は出ませんねえ。(「そうじゃなくて、こうやるの！」の声)何度ってやっても無理みたいです。ひょっとして、火打石で火をつけることはできないのかな？

別の絵本を見つけました。



よく見るとうさぎのもっているものが違うようです。拡大してみましょう。



右の絵のウサギは両手に石をもっていますが、左の絵のウサギは右手と左手で持っているものが違います。



それが、これです。火打金（ひうちがね）と言います。火打石と火打金を使うとどう

でしょう。



今度は、見事に火花が飛びました。

石と石をぶつただけでは、火花は出ないこと、火打金が必要なことがわかりました。

ということは、この絵本の絵はウソだね。

この絵を描いた人は、どうしてウソの絵を描いてしまったんだろう？みんなを、だまそうとしたのかなあ？



.....

そうだね『知らなかった』んだ。

火打石について、正しい使い方を知らなかったから、『知っているつもり』で絵を描いて自分の間違いに気づかなかったんだ。そればかりじゃない、絵を見た絵本の会社の人たちも『知らなかった』から間違った絵のままで本にしちゃったんだ。

今日は「正しい知識」って何なのか、『本当に知っている』ってどういうことなのか、お話ししてきました。

みんな、「〇〇について、ボク知ってるよ。だって、本に書いていたから・・・、誰かが言っていたから・・・」って、言うことあるよね。でも、それって『本当に知っている』って言えるのかなあ・・・。

『本当に知っている』と言えるようにするためには、自分の目で見たり耳で聞いたり、確かめてみるのが大切です。

みんなは「 $1+2=3$ 」だということを知っています。それは、足し算の勉強で、いろいろな数字を足してみても、ブロックやおはじきも使って「こたえが本当にそうなっている」事を確かめることを何度も繰り返したから『本当に知っている』ということができるのです。

学校では『本当に知っている』と言えることを増やすために勉強しています。自分の力で、そして友達と、協力しながら考えたり確かめたりして『本当に知っている』と言える知識を増やしていきましょう。

世の中は、たくさんの情報であふれかえています。私たちは、たまたま目や耳にした情報であっても、鵜呑みにして他の誰かに伝えてしまいがちです。また、一旦刷り込まれてしまった情報は『知っているつもり』で改めて確かめようとはしないものです。

この「かちかちやま」の絵本の例は、その端的なものと言えるでしょう。

正しく「火打石と火打金」が描かれた本の画家は赤羽末吉さんです。赤羽さんは明治生まれの方なので、おそらく実際に使ったこともあり『本当に知っていた』のでしょう。

子ども達に『本当に知っている』と言える知識を獲得させるために、体験を通したり自ら知ろうとして調べたりする学びを大切にしたいと思います。